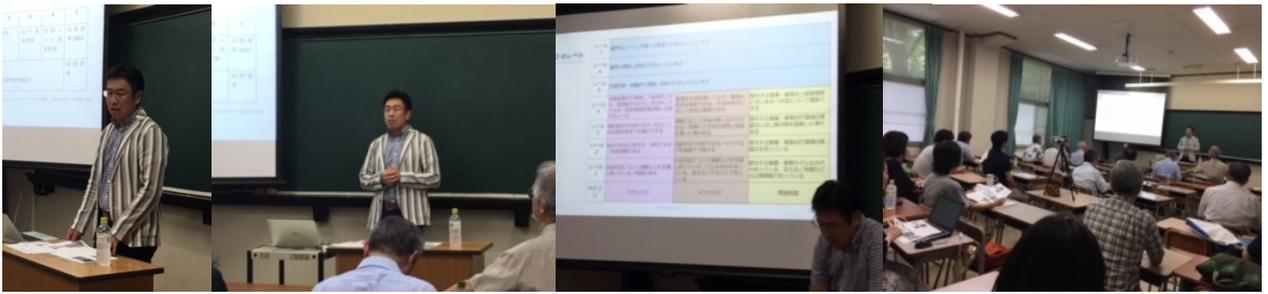


▲▼▲第56回クリエイティブサロン（2018年7月21日）開催報告▲▼▲

第1部講演会：『働き方改革と創造性：時短の次に着目すること』

講師：平田謙次氏（エキスパート科学研究所所長・韓国放送通信大学客員教授）



東京海洋大学越中島キャンパス1号館で実施された第56回クリエイティブ・サロンの講演者は、エキスパート科学研究所所長の平田謙次氏だった。平田氏は、アカデミア世界もビジネス世界も深く探求し、価値ある知見を見出せる稀有な存在といえよう。その氏がテーマに掲げたのが「働き方改革と創造性：時短の次に着目すること」であった。内容は次の通りである。平田氏は6つの産業のスキル標準の開発を手がけてきた。特に、ITスキル標準は改訂を重ねながら、ICT産業では今も多くの企業が利用しているが、その背景は個を捉えることであり、成長・スキルへの注目であったことと、実務ビジネスにおける価値創造を狙ったものであった。ICT産業構造の変化とともに今後、一層創造性が必要とされているが、その発揮領域についても紹介した。一方、日本人のグローバルビジネスでの成功においては、創造性の前提となる想像力がキーであることが、質的量的調査からわかった。慣れ、思い込みを捨て、アンラーニングを生み出せる思考がキーとなるのである。最後に、働き方改革において、生産性の考え方を従来の要求水準/期間ではなく、創造性の要素を取り入れる考え方を紹介した。

平田氏は現在、情報処理学会情報規格調査会SC36標準化国内委員会 委員長、情報処理学会情報規格調査会国際標準技術委員会 委員、ISO/PC288(教育機関の品質マネジメント)国内審議委員会 委員、経済産業省IT関連スキル標準統合化委員会 委員、経済産業省グリーンエネルギースキル標準開発委員会 委員、(NPO)日本人材データ標準化協会 理事長代行、(NPO)日本人材データ標準化協会 コンピテンシー部会長など精力的に活動している。1年の半分は海外でディスカスしている真のグローバル研究者といえる。約30名が参加した講演は大変盛り上がり、懇親会も対話が途切れることがなかった。(記事・担当理事豊田貞光)

第2部ワークショップ：『自分のキャリアの中の“物語”を見つける』

講師：杉原麻美氏（淑徳大学 人文学部 表現学科 准教授、編集者）



今回のワークショップでは、「物語」のもつ有効性をお伝えしながら、ご自身のキャリアの中にあるドラマに着目して伝え合うワークを体験して頂きました。好きな物語(映画、小説など)をグループで共有するところからスタートし、物語構造の情報をご提供した後に、各自のキャリアの中の物語を見つけて頂きました。用いたツールは、大学の文芸創作の授業や、自分史を創るワークショップで実際に使用しているものです。

いまや「ストーリーテリング」は、広告やメディア業界だけでなく、臨床心理、キャリアカウンセリング、組織運営、ビジネス戦略でも重視されるようになりました。その背景には、人間が持つ大きな特性—多くの情報の中から特定の情報を選び、「物語」に変換しながら物事を思考し、理解し、他者に伝える—ことが挙げられます。物語化を自分自身の経験に対して行えば、過去の出来事を一連の物語として捉え、自分なりの意味づけがなされて自己理解が深まります。また、点在する情報に対して物語化を行えば、物語というパッケージによって情報のつながりが理解でき、長期記憶に刻まれやすくなります。このように物語化された情報は、他者に何かを伝えるときにより効果的に伝わります。ゆえに、リーダーがストーリーを語る能力を高めたり、企業やブランドが自分たちの強みを象徴するシンボリック・ストーリーを持つことには大きなメリットがあります。象徴的なのは、東京五輪招致を決定づけたIOC総会の(あの「お・も・て・な・し」を含む一連の)最終プレゼンテーション。この原稿をまとめたのは元ジャーナリストのニック・バーリー氏で、彼はジャーナリスト時代に培ったストーリー構築の経験が役立っていると語っています。受け手に価値のある情報を取捨選択し、物語化し、効果的に伝える力は、社会人に必要なスキル。今後もこの能力開発の学習デザインを研究したい私にとって、この度は有難い機会を賜りました。深く感謝申し上げます。

(報告：杉原麻美)